

曹洞俳壇

選・村松五灰子

稲を刈る亡父の大声聞こえけり

静岡県 富岡 一郎

評 稲刈りの頃ともなると、今は亡き精神で頼もしい父の姿が浮かび、大声で指図する声までも聞こえてくる。齢を重ねれば、なお思い出は深くなる。

月光の妖しきときの円空仏

東京都 伊奈 三郎

評 円空は生涯に約十二万体の仏像を彫ったといわれる。その粗削りの木彫佛が月光を浴びるとき僅かに漂う微笑みが妖しい。その野生美にも作者は心惹かれた。

◆すさまじや俳句習ひて知ることば 新潟県 大橋 恒次

◆空っぽの循環バスや刈田中 長野県 下島 博

◆穴道湖の雲押し分けていなびかり 山口県 御江やよひ

◆露けしや空気電池を補聴器に 千葉県 鈴木 英子

◆開閉の障子に今日を占へり 静岡県 島田 イネ

◆月光を載せてひしめく船溜 佐賀県 池内 淳子

◆なめらかに播粉木古し道元忌 神奈川県 大竹のり子

◆秋彼岸南無六輔南無巨泉 福岡県 渡辺 正一

◆足裏に小春の砂や由比ヶ浜 東京都 野村 信廣

◆省みてはづかしき日々うろこ雲 福岡県 安部 正和

*選者吟

雪の旅君の電話のその後も

五灰子

*作句小見

十七文字の中に小宇宙を描きます。観念的にならぬこと。解り易いこと。読めばすぐに映像が浮かぶ句が良い句と言えます。

曹洞歌壇

選・長澤 ちづ

穂穂ひつほのような暮らしや我が余生収益無くも
生きる楽しみ
新潟県 大橋 恒次

評 穂穂とは稲の収穫後に生える二番穂のこと。昔は飼料にしたり味噌作りに使われたが、稲ほどの収益にはならない。そんな穂穂に自らの現在の生活を喩えて詠う。嘗ては農業を支えてきた世代の、悠々自適の暮らしぶりが伝わってくる。

見あぐるもうつつむくもあり落ち椿夫と父母
待つ墓への道に
静岡県 横山 政子

評 落ち椿に導かれるように、ゆっくりと歩を進めて行く作者の姿が浮かぶ。落ち椿はまるで夫や父母の化身のようだ。上の句と下の句の世界がほどよく均衡を保っている。

夫と撞く鐘の余韻は流れゆく比叡の山の森の深みへ
山梨県 北村 富子
昂りて油蟬啼く月見坂歩む木の間に川の川見えて
岩手県 宍戸さとる

◆津波に耐え郷にボツンと日和山七百人の魂守ること
宮城県 須藤智恵子

◆除染土の埋めらるる庭とは知らずして「除染ごっこ」を
子らして遊ぶ
福島県 大槻 弘

◆避難所の椅子に座りて一夜明かし台風の通過を友と待ち
たり
岩手県 阿部 漣子

◆退院の翌日雨の石畳妻にわずかに遅れて歩く
東京都 野村 信廣

◆稲刈りを終えた枯れ田にカラス群れ落ち穂ついばむ命の
強さ
秋田県 小松 紀子

◆銀鈴のごとき露おく山の畑踏み込む足に染みる冷たさ
神奈川県 小橋 幸

◆口すぼめそつと吐き出す筋雲は秋を知らせて風の歌生む
岐阜県 後藤 進

◆喜寿過ぎて傘寿への道坂の道焦ることなく踏みしめ上る
広島県 小畑 宣之

*選者詠

朴の幹を濡らして驟雨去りしのみだあれも
こないだあれもくるな
ちづ

*作歌小見

宍戸さんの奥行のある歌、後藤さんの詩的な感受性にも感心しました。熊本地震や鳥取地震、台風禍の北海道と災害の多い昨年でした。東日本大震災の復興も未だ成らず、新年が皆さまにとつて良き年でありませう心からお祈り致します。



大本山永平寺



新春

明けましておめでとうございます。

大本山永平寺も穏やかに新年を迎えることが出来ました。永平寺の元旦は三時に起床し、いつもと変わらず坐禅から始まります。年の初め、月の初め、日の初めである三元の朝に、姿勢を調え、息を調え、静かに坐れることは有り難く、今年も仏道に励もうと志気を高める修行僧にとって大切です。歳朝の特別行事を勤め終えますと、みんなでお雑煮やおせち料理をいただきます。ほっと一息の楽しいひと時に、永平寺でお正月を迎えた実感が湧いてきます。三が日は、一日に「転読大般若会」二日は「大般若講式」三日には「歎仏会」の法要を行い、世界の平和と人々の安穩、仏法興隆を願うご祈禱をし、仏さま、お祖師さまのお徳を讃えます。参拝の方もたくさんお越しになられ一緒にお参りくださいます。

お正月の諸行事を勤め、下旬の一月二十六日は、道元禅師さまお誕生の日です。お誕生を祝う「高祖大師降誕会」とお徳を讃え、恩に報いるために「報恩講式」が営まれます。

道元禅師さまの御真廟である「承陽殿」では、今も道元禅師さまが居られるが如くお仕え致しております。永平寺が開かれて七七三年。修行僧たちは、道元禅師さまに見守られて修行に励んでおります。



大本山總持寺



改歳を迎えて

ご挨拶
丁酉の新年を迎え、皆さまのご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

總持寺の歳末から新年にかけての行事はまことに慌ただしいものです。大晦日の除夜の鐘から始まり、境内には初詣の人が続々と集まってきて、大祖堂へ到る長蛇の列が出来ます。

大祖堂では江川禅師さま御親修にて元朝大祈禱が行われ、世界の平和と人々の安寧をお祈りいたします。

続いて、初詣の皆さまへの祈禱法要が始まり、明け方まで続けられます。三が日には、毎年三十万人以上の方に参拝いただきます。朝の行事が一段落しますと、役寮・修行僧みなでお雑煮を頂戴いたします。修行僧たちはお雑煮をいただきながら、本山で正月を迎えられることの喜びを噛みしめるのです。

新年の行事が落ち着きますと、昨秋から修されていた冬安居と呼ばれる一〇〇日間の集中修行が解制（終了）となります。

解制を迎え、凜と張り詰めた空気の中にも、冬の厳しい修行を成し遂げた修行僧たちの明るい笑顔が印象的です。

一月十一日からは「寒行托鉢」が始まり、月末まで行われます。近年では托鉢を撮影しようとするカメラファンも多く見られ、この時期の風物詩となっております。